

特集
おもしろ
研究・先生Ⅲ

地域調査を通して企業と 地域の関係に迫る



地域をよくするには
地域をよく知ることが
もっとも大事!!

三重大学人文学部・准教授
鹿嶋 洋 Kashima, Hiroshi

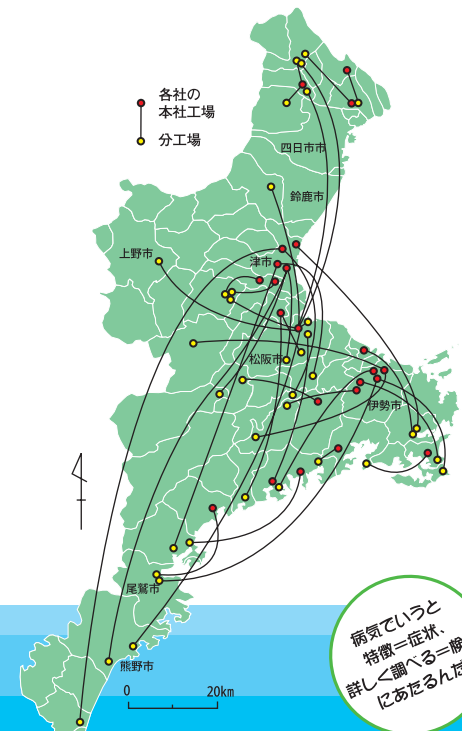


◎「企業の地理学」

ふだん馴染みのある地域でも、実際に調べてみると今まで知らなかった姿が見えてきます。私は、企業（特に工業）と地域を通して、地域のしくみを探っています。

三重県は南北に細長く、地理的条件が多様です。それに対応するように、工場の特徴も地域によって異なります。図Aは、県内に複数の工場を持つ電気機械工業企業の分布を示しています。製品は自動車用組電線、液晶部品、モーターなど様々で大手メーカーの下請け企業が中心です。この図を手がかりに詳しく調べると図Bのようなことが解ります。

図A 電気機械工業における工場ネットワークの事例(1994年)



病気でいうと
特徴=症状、
詳しく調べる=検査
にあたるんだ

◎企業の立地戦略を読む

企業は、人件費の削減や従業員の確保を狙った立地戦略をとっていました。

しかし、1990年以降、日本企業は工場を海外にシフトする傾向を強めました。

その理由の一つは、人件費が安価で、かつ若い従業員を採用しやすいからです。それにともない、県南部では工場の縮小や閉鎖が生じ、従業員の解雇や賃金の削減など、地域に深刻な影響が現れています。

企業はどの地域で何をやるのが最も効率的かを絶えず検討し、立地を決めています。企業が立地すると、従業員の採用や原材料・備品調達での取引など様々な面で地域的な関係が生じます。つまり、企業の立地は地域に大きな影響を与えることになるのです。

図B 企業と地域 関係を探ってみよう

- 1 特徴
- 四日市市や鈴鹿市などの工場集積地に立地していない
 - 中南部地域に多い
 - 津市、松阪市、伊勢市に本社を置き、県南部に分工場を配置する企業が多いこと
 - 工場が県内各地に分散的に立地している

2 詳しく調べる

企業で	地域で
その地域をどのように位置づけてビジネスを行っているか? ↓ 企業へのインタビューや公表資料などで情報を収集	企業が地域にとってどのような存在か? ↓ (地元住民と企業との雇用関係) (地元中小企業との取引関係) の聞き取りやアンケートなど

- 3 原因と結果
- 企業は小さな工場を複数の地点に設け、労働力の競争を回避
 - 都市部よりも賃金を抑えることができる
 - 雇用機会に恵まれない農山漁村に立地すると工場従業員を確保しやすい
 - 工場の収入だけでは苦しいが、他産業との兼業で生計を維持できるので住民は工場を歓迎

人件費の削減や従業員の確保を狙った立地戦略



最近の活動



これまで培ってきた
地域調査のノウハウを応用して、
地域連携にも力を注いでいます

- 県内各地の地域経済の実態調査と提言
(液晶産業の立地と亀山市のまちづくり、尾鷲市の水産業雇用など)
- ゼミ生の現地調査の指導
(毎年県内で現地調査を行い、地域調査技法を習得させる)
- 自治体の総合計画の策定支援
(住民とのワークショップなどを通して課題の発見や改善策を議論する)
- 各種審議会への参加

尾鷲市の水産業が地域の中で どのような役割を果たすかの調査

どうやって? 市内の2地区を対象に、世帯員の仕事の内容と職歴を調べ、住民生活と水産業の関わりを探った。

それで? ● 漁業の高齢化と若者の漁業ばなれ
● 水産加工業は様々な職歴の人を吸収し、柔軟な雇用機会を提供
● 水産業に親しみを感ずる住民意識

雇用面などで地域の中での地位は
なお重要である。

